



寄り添う心
つながる手

心がいっぱい
朝日町ボランティア
マスコット
ハートフルちゃん

ふれあいネットワーク

ハートフル通信

オール朝日町で支える 安心生活のまちづくり(町社協の基本理念)

令和3年1月1日

第22号

編集・発行
朝日町社会福祉協議会
富山県下新川郡朝日町泊418
tel.0765-83-0576
fax.0765-83-1589
http://asahiwel.com

特集

Withコロナ時代の “地域の縁側”の今

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、1年が経過しました。感染予防のためのマスクの着用やこまめな手指の消毒、人と人との距離の確保は今や当たり前の光景となりました。この未知のウイルスにより、生き方や価値観が大きく変化しようとしています。地域においても、長年にわたり育んできた人と人との絆や、落ち着ける居場所にも少なからず影響がでています。今号では、withコロナの時代における地域の縁側「ふれあいいいききサロン」の現状について特集します。

飛沫が拡散するのを防ぐことが挙げられていました。

令和2年4月、日本にも新型コロナウイルス感染症が少しずつ広がるなか、地域の集いの場である「ふれあいいいききサロン」(以下、サロン)の運営に携わる民生委員やボランティアの皆さんは、とても不安を感じていました。「集まることで感染リスクが高くなるよね」「けれど、集まることのないと閉じこもりがちになるし、足腰弱くなるし...」朝日町社会福祉協議会(以下、朝日町社協)には、そんな相談が多く寄せられました。サロンの開催を諦め、中止とする決断を下さざるを得ない状況にもなりました。朝日町社協としても、長年にわたり地域の皆さんが築いてきた高齢者の居場所が不安に晒されている現状に対して、どのようなサポートを行えばよいか悩んでもいました。そんな中、厚生労働省よりサロンの開催の場を再開するための留意点(左下チラシ)が示されました。内容は、サロンの開催の際は人と人との距離の確保、マスクの着用、こまめな手指消毒などに留意し、飲食を控え、検温の実施など健康管理への配慮、また飛沫が拡散しないように大声で発声をするのを控えることが挙げられていました。

集まらない不安



宮崎地区 ふれあいいいききサロン ~干支の手芸~

工夫を凝らしながら

不安を抱えながらも、サロンを再開し始めた運営ボランティアを勇気づけ、背中を押してくれたのはサロンの再開を心待ちにしていた参加者でした。「あんた、まめにしとったけ〜」「どこも出んから足、弱ったわ〜」



大平サロン

再会できた喜びや安堵感が伝わってきます。それと同時に、新型コロナウイルス感染症への恐怖や不安に伴う気持ちの落ち込みなども吐露される様子もありました。そんな参加者の思いを受け止め、できるだけいつもと変わらない居場所であるサロンづくりを心掛けてきたのは、運営ボランティアでした。

大平(だいら)サロンでは公民館に集まるのを避け、換気の良いガレージで近況を語り合いました。元々、大平地区では、屋外で住民が集まり話をする習慣もあるため、その日常の延長線上にサロンを開催した形となりました。また、お菓子やお茶は持ち帰りとする



山崎地区5支部サロン

ような工夫にも取り組んでいます。山崎地区5支部のサロン「ふれあい広場」では、体操の指導者が自身と参加者の感染を防止するためにフェースシールドを装着して体操を行ったり、なかなか会えない親しい人へ絵手紙を書くこともされました。

ある月の笹川地区のサロンは、個人ボランティアの吉田進さんが奏でるクラシックギターの演奏でした。「この広い野原いっぱい」や「ふるさと」などの懐かしいメロディーを披露される際に、吉田さんの『皆さん、心の中で唄ってくださいね♪』という感染防止に配慮した言葉がとても印象的でした。

サロンの意義

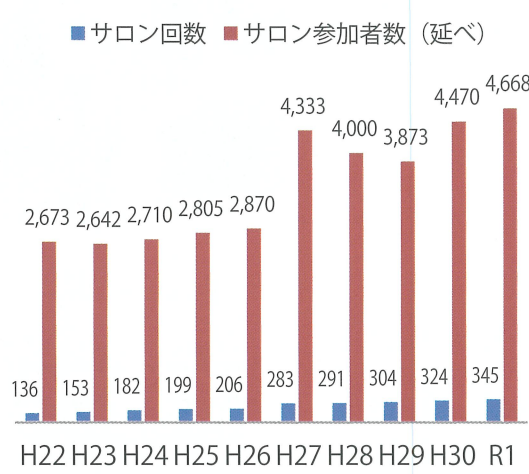
サロンは年々、少しずつではありますが開催される機会が増えています。地域において集う機会が増えているということは、運営ボランティアを含め、サロンに携わる全体的な方々のあたたかい思いがあつてこそだと思えます。しかし、そのような思いに反して新型コロナウイルスは一人が集いつながる機会を脅かしています。不安のあまり、人との接触や交流をできるだけ控えている方もおられるかと思えます。一方で、人と人がつながり関わっていることの尊さや喜びを再確認する機会となったのではないのでしょうか。それは、サロンを開催する意義を振り返ることに通じることだとも思えます。今後感染防止対策を十分に行つたうえで、各地区においてサロンが「地域の縁側」として開催されるように朝日町社協もサポートして参ります。なお、サロンを自主的に開催したい方は、朝日町社協までご相談ください。お待ちしております。



大声は出さずに心の中で唄ってます♪

笹川サロン

ふれあいいいききサロンの回数等の推移



おとなりのうめさん

昨日ね、お隣さんが引越されて来たの、ごあいさつに来られて、お餅ももらったの、一緒に食べない？

うめさん

ジョージ

僕ね、お餅ももらったの、ごあいさつに来られて、お餅ももらったの、一緒に食べない？

うめさん

ジョージ

えー!! 日本とは違う習慣だね!!

僕も引越したことがあるんだけど、お隣さんがハクを持ってあいつに来てくれたんだ。うれしかったよ!

↑パイ

もちろんです! 日本人も、お隣さんが引越されて来たの、ごあいさつに来られて、お餅ももらったの、一緒に食べない？

Welcome! (ようこそ)って気持ちには、変わりないよ。これから仲良くしていきたいな。そして、移住してくれる人も増えてほしいね!

うめさん

ジョージ

令和2年度 地域福祉懇談会

～「互助」の体制づくりに向けた話し合い～

朝日町社会福祉協議会では、この町の支え合い・ボランティア活動を5カ年毎の計画に基づいて推進しています。令和2年度は、その計画である「第4次朝日町地域福祉活動計画(以下、活動計画)」の2年目となります。

この活動計画の重点事業であり新規事業の一つが、「各地区社会福祉協議会(以下、地区社協)の福祉活動計画策定の推進」です。

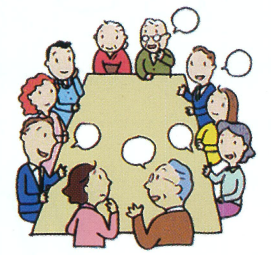
そのために、各地区においてどのような「互助」の体制が必要なのかを話し合う「地域福祉懇談会」を、各地区社協の皆さまと共に開催しています。

令和2年度の地域福祉懇談会では、各地区の福祉活動計画の重点取り組みを決定・共有するために以下のような話し合いを進めています。

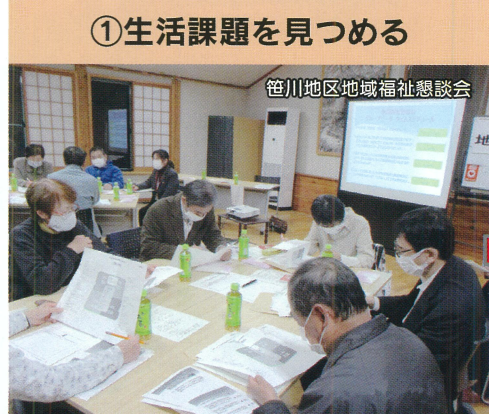
自発的に自分を支える 例: 健診、介護予防に取り組みなど	制度に基づかず、お互いを助け合う 例: 近隣の助け合い、ボランティアなど
社会保険のようにお互いを助け合う 例: 医療保険、介護保険など	自治体が提供するサービスなど 例: 生活保護、権利擁護、虐待防止など

地域福祉懇談会の目的

地域福祉懇談会とは、地区や町内などを単位に、地域に存在する(※)生活課題を見つめ、その解決の糸口を町内会関係者や民生委員、ボランティア関係者などと一緒に話し合い考えることです。



※生活課題…地域で暮らしを営むうえでの困りごと(例: 役員の担い手不足、高齢者への支援、免許返納による移動手段の確保など)



①生活課題を見つける
2年前に開催しました地域福祉懇談会において、挙がった様々な生活課題を振り返ります。また、現在の生活課題も見つめる機会となります。



②生活課題を話し合う
地区の「互助」における活動で対応していく必要性の高い生活課題は何かを話し合い、共有します。地区の特色や実情によって必要な「互助」に違いもできます。



③生活課題の解決方法を話し合う
生活課題の解決方法や具体的な手立て、対応を話し合います。新しい活動を行うよりも、現在行っている支え合い活動をどのように残していくかを話し合い、共有します。

地域福祉懇談会の話し合いにおいては、ふれあいいきいきサロンなどの居場所の充実やひとり暮らし高齢者などへの支援、介護予防活動の普及など様々な意見が挙げられました。また、そのために必要なのは様々な団体同士の連携づくりや、災害時の避難支援にも通じる日頃からの見守り・声掛けなどの関係づくりの活動が大切だという意見も挙げられました。



ひきこもり家族座談会のご案内

朝日町社会福祉協議会では、ひきこもり状態の方のご家族を対象に、「ひきこもり家族座談会」を開催いたします。

子どもがひきこもりになったとき、親として家族としてとても心配だと思います。そんな不安な思いをご家族だけで抱えていませんか。

同じような悩みを抱えた方同士で、一緒に思いを分かち合い、考える機会としてみませんか。

日時 令和3年1月14日(木) 午後1時30分～3時
場所 五叉路クロスファイブ2階 研修室4 (和室)

※秘密は厳守いたします。なお、個別に相談を希望される方は下記の連絡先へご予約をお願いします。

【予約・問い合わせ】
朝日町社会福祉協議会
TEL 0765-83-0576
メール syakyou@pri.town.asahi.toyama.jp



福夫と協子の社協ものがたり

ご近所との関わり

福夫さん、協子さんの家を覗いてみました

福夫さん、そういやお隣のさっちゃん(92歳)、最近見かけど元気にしてるかな。

元気にしてるよ。一昨日もサロンで会ったし。

そいがか。なん、元気ならいいがよ。ただ、ひとり暮らしやから何かと大変なことあるかなあ、つこ気になって。あらやだー他の女性のこころ気にしたらけ？

今さら何言うところよ。恥ずかしいか。

冗談やちや。ハハハ。そういえば、さっちゃん最近ノック利用し始めて、買い物に行けることをえらい喜んでたわ。

そうか。ノック紹介したかいがあったの。

そうやね。でも家におる時に些細なことでも困るときもあるらしいわ。

じゃ、どういう時け？

ゴミ出しとか電球の交換とかって言うことだったわ。

そつなんか。それぐらいやったらオラやってあげるわ。

本当？さっちゃん助かると思うわ。

それぐらいしかできんけどの。

なん、そういう人を思いやる気持ち大事なんやぜ。それもボランティアの一つやよ。

ばあさんに褒められると嬉しくなってきたわ。早速、さっちゃんに何か困ったことないか聞いてくるわ。早速、さっちゃん行ってらっしゃい。



編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人との関わり方は変わろうとしています。しかし、関わり方は変わっても、大切なのは「つながっている」ということではないでしょうか。「新しい生活様式」を守りながら、つながりを感じた毎を送りたいですね。(廣田)

